



Monthly Report

～住友信託の経済・市場情報～

Contents

● 経済・市場振り返り

- ✓ 主な経済指標・ニュース
- ✓ 投資環境(国内)
- ✓ 投資環境(海外)
- ✓ 投資環境(為替)
- ✓ 主要ベンチマークの推移

● 見通し

- ✓ 内外経済
- ✓ 国内資産・海外資産・為替

● マクロトピックス

- ✓ 日本・米国・アジアのGDP成長率
- ✓ 今月のトピックス



SUMITOMO
TRUST

住友信託銀行



● 経済・市場振り返り

- ✓ 主な経済指標・ニュース
 - ✓ 投資環境(国内)
 - ✓ 投資環境(海外)
 - ✓ 投資環境(為替)
 - ✓ 主要ベンチマークの推移
-

経済・市場振り返り ~8月の主な経済指標・ニュース(国内)~

月日	国内
8月6日	6月の景気動向指数で、先行指数が前月よりも2.9ポイント高い179.8と、過去最大の上昇率となった。前月を上回るのは4ヶ月連続。
8月10日	6月の機械受注統計によると、設備投資の先行指標となる「船舶・電力を除く民需」は前月比9.7%増と、4ヶ月ぶりのプラスとなった。
	7月の景気ウォッチャー調査では、景気の現状判断DIは42.4と前月比0.2ポイント上昇し、7ヶ月連続の上昇。先行き判断DIは44.9と前月比0.7ポイント低下。
8月11日	7月の工作機械受注額(速報値)は、前年比72.2%減。14ヶ月連続で前年割れとなった。
8月12日	8月の月例経済報告で、景気の基調判断を「厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる」として4ヶ月ぶりに据え置いた。
8月13日	7月の企業物価指数は前年同月比8.5%下落。1960年の統計開始以来で最大の下落率を更新。
	6月の鉱工業生産指数(確報値)は前月比2.3%上昇。速報値(2.4%)から下方修正された。
8月14日	日銀は8月の金融経済月報で、企業の資金繰りは「なお厳しいとする先が多いものの、改善の動きが続いている」との見方を示し、前月の「幾分改善している」から判断を前進させた。景気の現状は「下げ止まっている」、先行きは「次第に持ち直しに向かうと考えられる」として判断を据え置いた。
8月17日	6月の第3次産業活動指数(速報)は前月比0.1%上昇。
8月18日	4-6月期の実質GDP(速報値)は前期比年率3.7%増となった。プラス成長は5四半期ぶり。
8月28日	7月の全国百貨店売上高は前年同月比11.7%減。
8月30日	7月の完全失業率は5.7%と前月から0.3%上昇し、過去最悪を更新。7月の有効求人倍率は前月を0.01ポイント下回る0.42倍と、3ヶ月連続で過去最低を更新。
	7月の全国消費者物価指数(生鮮食品除き)は前年同月比2.2%低下。低下は5ヶ月連続。
8月31日	第45回衆院選、民主党が圧勝。政権交代へ。
8月31日	7月の鉱工業生産指数は前月比1.9%上昇。上昇は5ヶ月連続。

Note

Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

経済・市場振り返り ~8月の主な経済指標・ニュース(海外)~

月日	海外
8月3日	7月のISM製造業景気指数は前月比4.1ポイント上昇し48.9となった。前月比でプラスになるのは7ヶ月連続。
8月4日	6月の米個人所得は前月比1.3%減。消費支出は0.4%増、2ヶ月連続のプラスとなった。 6月の米中古住宅販売契約指数は前月比3.6%上昇。6年ぶりに5ヶ月連続で前月水準を上回った。
8月5日	7月のISM非製造業景気指数は46.4と前月比0.6ポイント低下。前月比でマイナスとなったのは4ヶ月ぶり。 6月の米製造業受注指数は前月比0.4%増。増加は3ヶ月連続。
8月7日	7月の米雇用統計によると、失業率は6月より0.1%低下し9.4%。低下は1年3ヶ月ぶり。非農業部門雇用者数は前月より24万7000人減少した。
8月13日	7月の米小売売上高は前月比0.1%減。低燃費車への買い替え補助金でかさ上げされた自動車を除くと0.6%減に落ち込んだ。 7月の米輸入物価指数は前月比0.7%低下。6ヶ月ぶりの低下。
8月14日	7月の米消費者物価指数は前月比で横ばい。 7月の米鉱工業生産指数は前月比0.5%上昇。前月比プラスは08年10月以来の9ヶ月ぶり。 8月のミシガン大学消費者信頼感指数は63.2と、前月(66.0)から低下。
8月17日	8月のニューヨーク連銀製造業景気指数は12.1と、前月(-0.6)から改善。
8月18日	7月の米生産者物価指数は前月比0.9%低下。前年同月比では6.8%の低下。 7月の米住宅着工件数は58.1万件と、前月の改定値に比べ1.0%減少。前月比でのマイナスは3ヶ月ぶり。
8月20日	8月のフィラデルフィア連銀景気指数は4.2と、前月(-7.5)から上昇。11ヶ月ぶりにプラスに転じた。
8月21日	7月の米中古住宅販売件数は524万件と、前月比7.2%増。4ヶ月連続のプラス。
8月25日	6月のケース・シラー住宅価格指数は前年比15.4%低下。前月比では1.4%上昇し、2ヶ月連続の上昇。 8月の消費者信頼感指数(コアPPI)は54.1で前月の修正値(47.4)から6.7ポイント上昇、指数の上昇は3ヶ月ぶり。先行きの景況感を示す期待指数も73.5と、前月(63.4)から上昇。
8月26日	7月の耐久財受注額は前月比4.9%増。先月の改定値(1.3%減)から大幅に回復。 7月の新築住宅販売件数は43.3万件と、前月比9.6%増。2005年2月以来4年5ヶ月ぶりの大幅な伸び。
8月27日	4-6月期の実質GDP成長率は前期比年率-1.0%と、速報値から変わらず。
8月28日	8月のミシガン大学消費者信頼感指数は65.7と速報値(63.2)から上方修正された。
8月31日	8月のシカゴ購買部協会景気指数は前月比6.6ポイント上昇し、50.0となった。前月比でプラスになるのは3ヶ月連続。

Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

経済・市場振り返り ~投資環境(国内)~

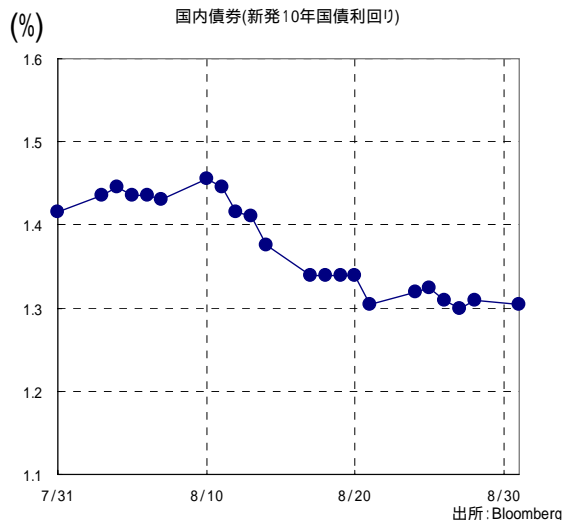
市場インデックスの推移	09/03月	09/06月	09/07月	09/08月	前月比	前年度末比
NOMURA-BPI総合	316.24	318.28	317.92	320.02	+ 0.66%	+ 1.20%
新発10年国債利回り(%)	1.34	1.35	1.42	1.31	-	-
日興CBインデックス(総合)	538.78	575.13	592.24	610.42	+ 3.07%	+ 13.30%
東証株価指数(配当込み)	945.72	1,135.59	1,160.68	1,179.85	+ 1.65%	+ 24.76%
日経平均株価	8,109.53	9,958.44	10,356.83	10,492.53	+ 1.31%	+ 29.39%

国内債券

8月の国内長期金利は上旬に緩やかに上昇したものの、中旬以降は低下基調で推移しました。

上旬は、世界的な株式の上昇等を受けて、長期金利は1.45%台半ばまで緩やかに上昇しました。中旬は、米国長期金利の流れを引き継いだこと、米消費関連指標の悪化から個人消費の回復期待が後退したこと等を受けて国内株式が下落すると、長期金利は低下しました。下旬は、国内株式が上昇に転じたものの、国債の入札が良好な結果となったことが金利の低下圧力となり、長期金利は横ばいで推移しました。

結局、国内長期金利は1.31%(前月比-0.11%)で月末を迎えました。

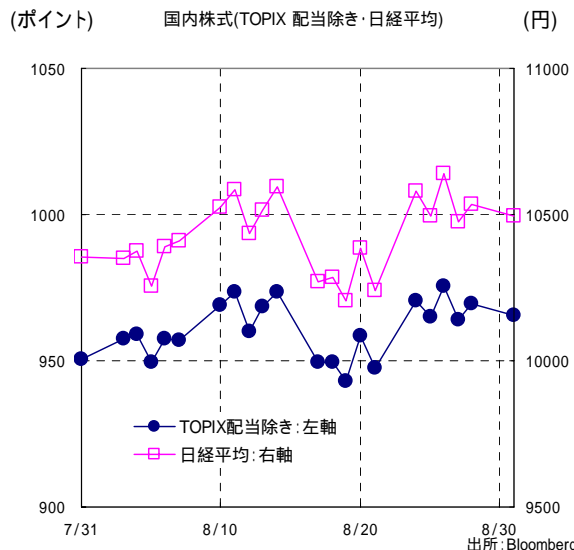


国内株式

8月の国内株式市場は6ヶ月連続の上昇となりました。

上旬は、4-6月期決算が市場予想を上回る内容となり、業績底入れ期待が高まったことを背景に上昇基調で始まり、米雇用統計の改善を受けて米国景気の底入れ期待が高まり上昇幅が拡大しました。中旬は、景気や企業業績の底入れ期待から高値圏で推移しましたが、米消費関連指標が市場予想を下回ったことを受けて個人消費の回復期待が後退したことや、中国株が大幅調整したことを背景に、大幅下落しました。下旬は、米住宅関連指標が市場予想を上回ったことを受けて反発しましたが、その後は為替や海外の景況感に左右される一進一退の動きとなりました。

結局、TOPIXは965.73(前月比+1.63%)、日経平均株価は10,492.53円(同+1.31%)で月末を迎えました。



Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

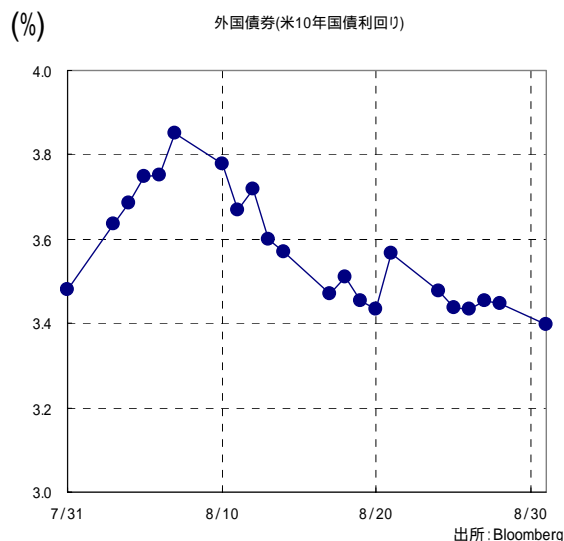
経済・市場振り返り ~ 投資環境(海外) ~

市場インデックスの推移	09/03月	09/06月	09/07月	09/08月	前月比	前年度末比
Citigroup世界国債(円ベース、日本除き)	313.82	318.25	320.37	316.69	- 1.15%	+ 0.91%
米国10年国債利回り(%)	2.67	3.54	3.48	3.40	-	-
MSCI世界株式インデックス(円ベース)	804.54	949.40	1,021.35	1,037.06	+ 1.54%	+ 28.90%
ニューヨークダウ(工業株30種)	7,608.92	8,447.00	9,171.61	9,496.28	+ 3.54%	+ 24.80%
ナスダック総合指数	1,528.59	1,835.04	1,978.50	2,009.06	+ 1.54%	+ 31.43%

米国債券

8月の米国長期金利は上旬に強めの経済指標を受けて上昇しましたが、中旬以降は無難な入札結果等により低下基調で推移しました。

上旬は、7月のISM製造業景気指数や6月の米建設支出、7月の米雇用統計等が市場予想を上回ったことを受けて、長期金利は上昇しました。中旬は、7月の米小売売上高や8月のミシガン大学消費者信頼感指数等の経済指標が市場予想を下回ったこと等から、長期金利は低下基調で推移しました。下旬は、7月の米中古住宅販売件数が市場予想を大幅に上回ったことから住宅市場の底入れが意識されて長期金利は上昇して始まったものの、無難な入札結果や軟調な株式相場を受けて、長期金利は低下基調で推移しました。結局、米国長期金利は3.40%(前月比-0.08%)で月末を迎えました。

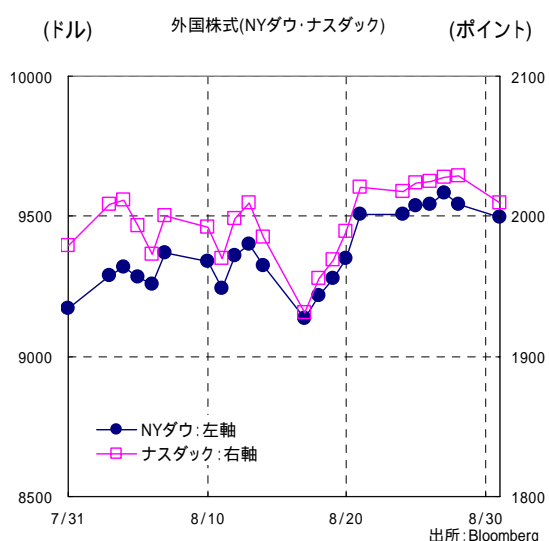


米国株式

8月の米国株式市場は、NYダウは2ヶ月連続、ナスダックは6ヶ月連続の上昇となりました。

上旬は、企業業績や景気の回復期待が高まるなか、ISM製造業景気指数や雇用統計等のマクロ指標の改善を背景に堅調に推移しました。中旬は、高値警戒感が高まるなか、ミシガン大学消費者信頼感指数が市場予想を下回ったことを受けて個人消費の回復期待が後退したことから大幅調整しましたが、その後は、住宅関連指標の改善や大手小売の決算が好感されたことから反発しました。下旬は、住宅市場の底入れ期待から上昇トレンドが継続しましたが、中国株の大幅調整や中国景気の先行き懸念が重石となり上値の重い展開となりました。

結局、NYダウは、9,496.28ドル(前月比+3.54%)、ナスダックは2,009.06(同+1.54%)で月末を迎えました。



Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

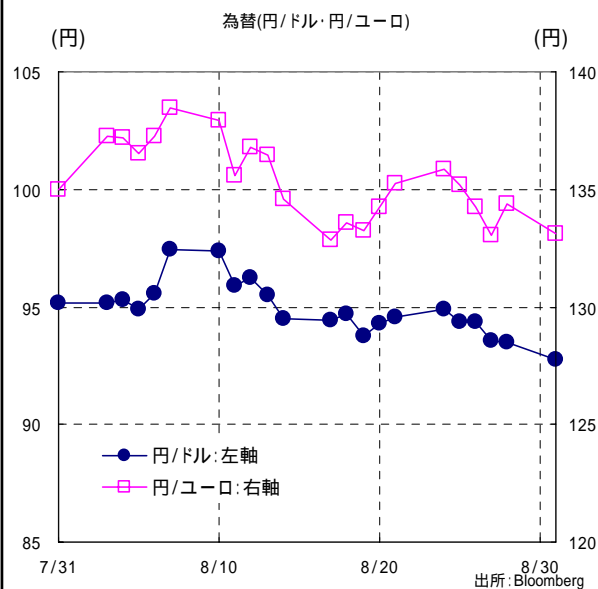
経済・市場振り返り ~投資環境(為替)~

市場インデックスの推移	09/03月	09/06月	09/07月	09/08月	前月比	前年度末比
円/ドル相場(ロンドン16時)	98.77	96.49	95.20	92.77	- 2.55%	- 6.08%
円/ユーロ相場(ロンドン16時)	131.14	135.33	134.96	133.12	- 1.36%	+ 1.51%

為替

8月の円/ドル相場は95円台前半で始まり、ボックス圏で推移しました。上旬は、7月の米雇用統計が市場予想を上回ったこと等から、円安・ドル高に振れました。中旬は、8月のミシガン大学消費者信頼感指数が市場予想を下回ったこと、中国株が大幅調整したこと等から、円高・ドル安で推移しました。下旬は、米住宅市場の底入れが意識されて円安・ドル高に振れる場面がありましたが、その後、中国株の急落等を受けて円高・ドル安で推移しました。結局、円/ドル相場は92.77円(前月比-2.43円)で月末を迎えました。

円/ユーロ相場は137円台前半で始まり、上旬は米雇用統計の改善等を受けて円安・ユーロ高で推移したものの、株式相場が下落に転じると円高・ユーロ安で推移しました。結局、円/ユーロ相場は133.12円(前月比-1.84円)で月末を迎えました。

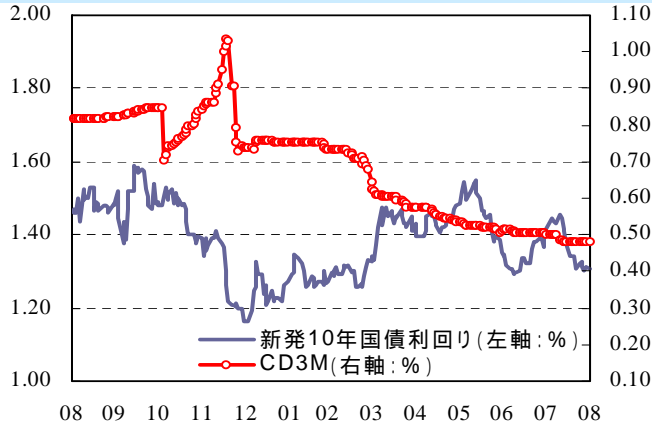


Note

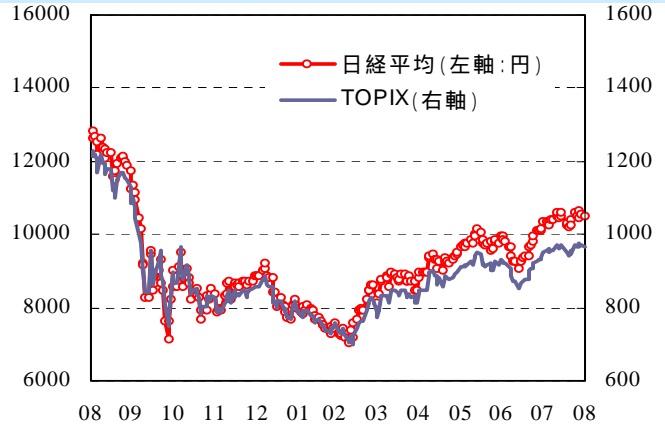
Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

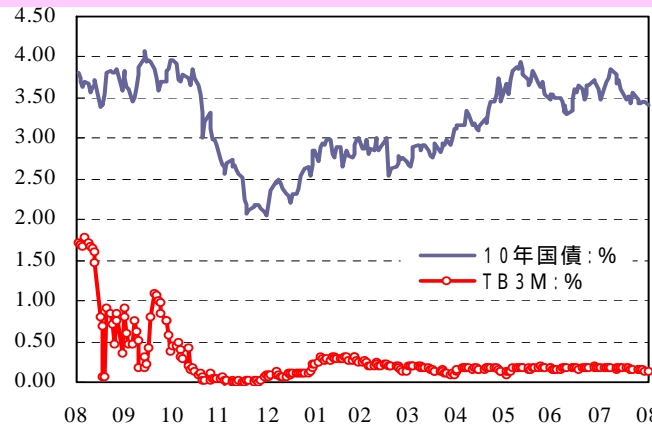
国内債券市場の推移



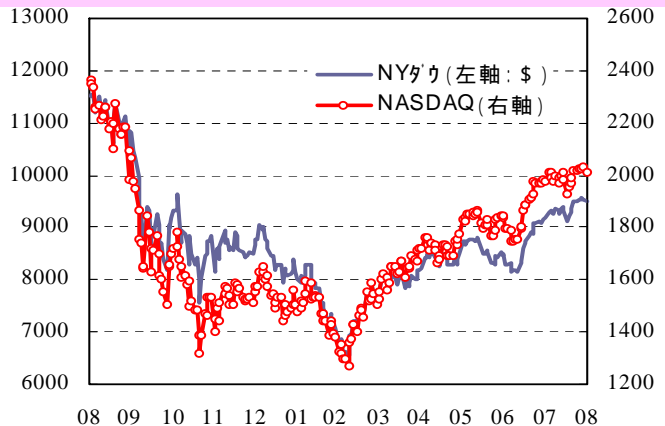
国内株式市場の推移



米国債券市場の推移



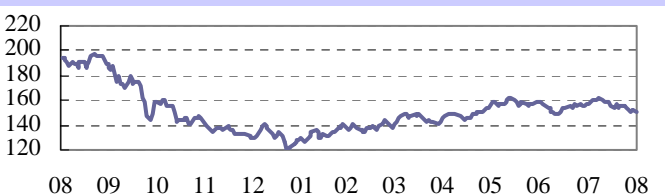
米国株式市場の推移



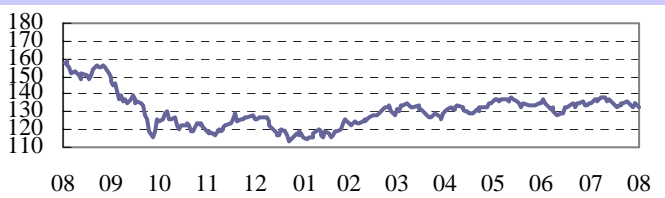
円/ドル相場の推移 (単位:円)



円/ポンド相場 (単位:円)



円/ユーロ相場 (単位:円)



出所: Bloomberg

Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。



● 見通し

- ✓内外経済
 - ✓国内資産・海外資産・為替
-

国内景気

< 企業部門 > 在庫調整の進展と輸出の持ち直しから生産が回復基調で推移し、企業マインドは緩やかな改善を継続すると予想します。設備投資については、低い稼働率や設備過剰感が残っており、減少率は縮小しながらも引き続き減少傾向を予想します。

< 家計部門 > 消費は、景気対策が下支えするものの、雇用・所得の悪化や天候不順(冷夏)など環境は悪化しているため、横ばいで推移すると予想します。景気対策効果の剥落に伴い、再度下振れするリスクに留意しています。

金融・財政政策

日銀は、景気が持ち直し方向にあると認識しつつも引き続き下振れリスクが大きいと判断しているため、現状の金融緩和政策を維持すると予想します。

米国景気

< 企業部門 > 在庫調整の進展や外需の下げ止まり、そして政策効果から企業マインドや生産の改善傾向は続くと予想します。こうした動きから減少率は縮小するものの、最終需要への慎重な見方は残るため、設備投資は減少基調を予想します。

< 家計部門 > 各種政策が消費マインドを下支えしている状況ですが、雇用・所得環境の悪化に加えて家計のバランスシート調整圧力は残るため、消費支出は力強さを欠く展開を予想します。住宅部門の底打ちに向けた動きや株高はプラス材料と認識しています。

金融・財政政策

8月のFOMCで国債買い入れ措置の終了を明確にしたことで非伝統的な政策からの出口戦略の一步を踏み出しました。しかしながら、MBS等の買い入れは継続されること、先行き景気への慎重姿勢は崩していないことなどから、政策金利の引き上げを伴う本格的な出口戦略までには時間を要すると想定します。

Note

Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

国内資産・海外資産・為替

国内債券

景気底入れや景気対策に伴う国債の需給悪化が金利上昇圧力となるものの、需給ギャップの大幅な悪化による物価低下傾向が鮮明になりつつあり、レンジ内で海外金利に左右される動きを想定します。

【2010年3月末予想値 新発10年国債 1.0-1.8%】

国内株式

当面の在庫調整の進展や世界的な景気対策効果の顕在化から景気見通しは上方修正が優勢になり、これらが株価の下支え要因になると予想します。一方で、先行きの景気や企業業績に不透明感が残っているため、これらを一定程度評価した後は、上値は抑制され、自律調整を交えた動きも想定しています。

【2010年3月末予想値 TOPIX 800-1,100】

米国債券

低い景気水準からインフレ圧力は限定され、FRBは金融緩和政策を継続するため、長期金利は景気底入れや需給悪化などからの上昇圧力を受けながらもレンジ内で推移すると予想します。

【2010年3月末予想値 米10年国債 2.80-4.20%】

米国株式

景気の底入れや成長見通しの上方修正が続く間は、株価は比較的堅調に推移すると予想します。一方で、景気底入れ後の景気回復力は緩慢なものにとどまる可能性が高く、徐々に上値が抑制されて市場の期待感の上下に振らされる展開を想定します。

【2010年3月末予想値 米S&P 800-1,100】

為替

<ドル/円> 米国財政赤字などのドル安圧力が残るものの、日米ともに金融政策は当面据え置かれるなど相対格差は少ないため、レンジで推移すると予想します。米国景気が安定し、FRBの利上げ期待が高まるにつれてややドル高・円安で推移すると想定します。

<ユーロ/円> 当面のドル安圧力や域内景気の底入れがユーロを下支えすると予想します。一方で、域内景気の底入れが確認されると景況感格差が焦点になるため、ユーロの上値は限定されていくと想定します。

【2010年3月末予想値 円/ドル 88-105円、円/ユーロ 115-145円】

Note

Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

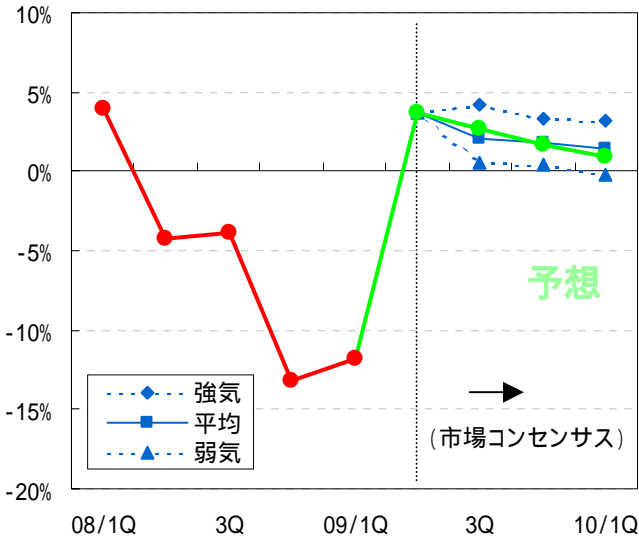


● マクロトピックス

- ✓ 日本・米国・中国のGDP成長率
 - ✓ 今月のトピックス
-

日本

日本:実質GDP成長率(前期比年率%)



出所:内閣府(実績値のみ)、社団法人 経済企画協会

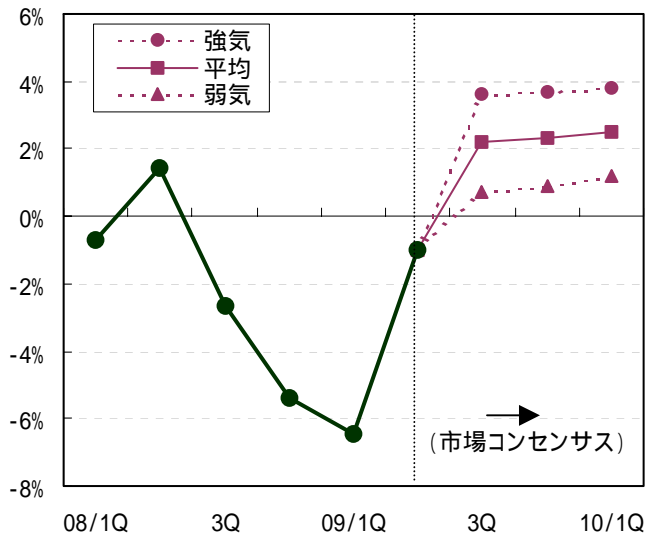
4-6月期の日本のGDP速報値は、前期比+0.9%と5四半期ぶりのプラスとなり、景気後退に歯止めがかかりました。

外需はプラス寄与となりました。一方で、内需は政策効果から個人消費と公共投資がプラス寄与したものの、設備投資や住宅投資がマイナス寄与となりました。

* 予想は弊社作成

米国

米国:実質GDP成長率(前期比年率%)



出所:米国商務省、ブルーチップ

4-6月期の米国のGDP改定値は前期比年率1%と速報値から変更ありませんでしたが、最終需要はプラスに転じるなど、景気底入れの動きが見られました。

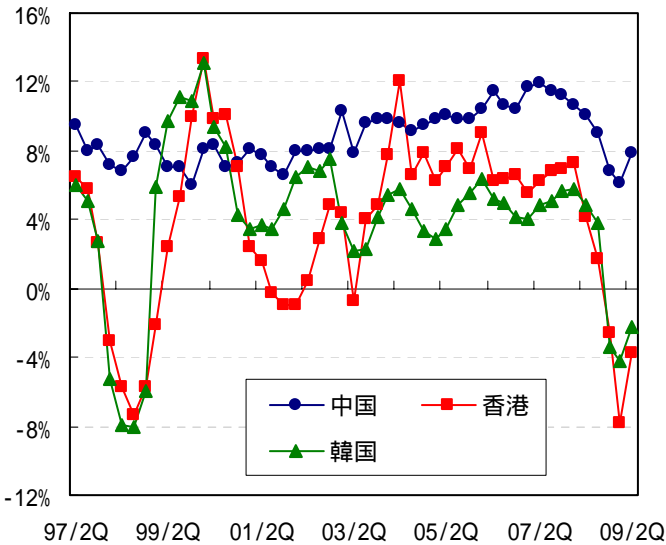
Note

Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

アジア

アジア実質GDP成長率(前年比%)



出所: 中国国統計局・香港統計局・韓国銀行

4-6月期の香港のGDP速報値は、前年同期比 3.8%と前期(7.8%)からマイナス幅が縮小し、景気後退に歯止めがかかりました。中国の景気回復を背景に外需のマイナスが縮小したことが要因です。

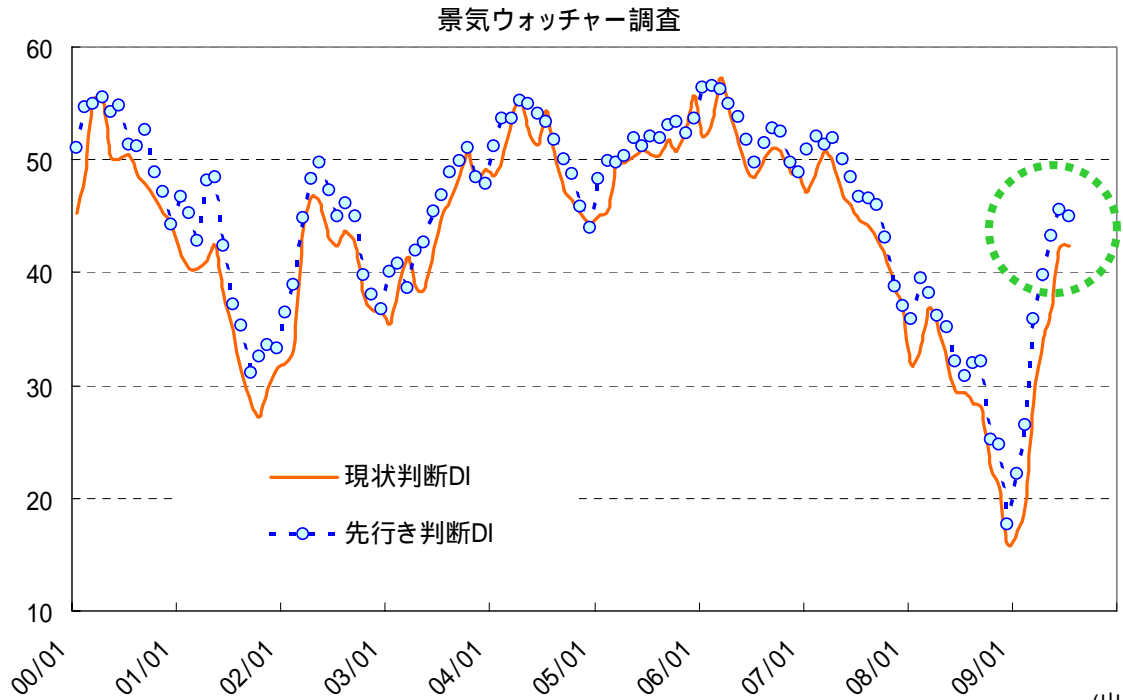
また、政府は2009年のGDP伸び率予想を、従来の 5.5% ~ 6.5% 3.5% ~ 4.5%に上方修正しました。

Note

Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

日本；景気の持ち直しは継続するか



7月景気ウォッチャー調査は現状判断DIが42.4となり、前月比0.2ポイントと7ヶ月連続で上昇しました。また、先行き判断DIは44.9となり、7ヶ月振りに低下しました。

〔現状判断〕はエコポイント等の政策効果が残り、受注や出荷が持ち直しつつあるため改善傾向を続けました。一方、〔先行き判断〕は冷夏や新型インフルザ流行に対する不安、総選挙の影響に対する不透明感等により低下しました。景気ウォッチャー調査では、景気の実状は厳しいながらも、下げ止まっていると判断しています。

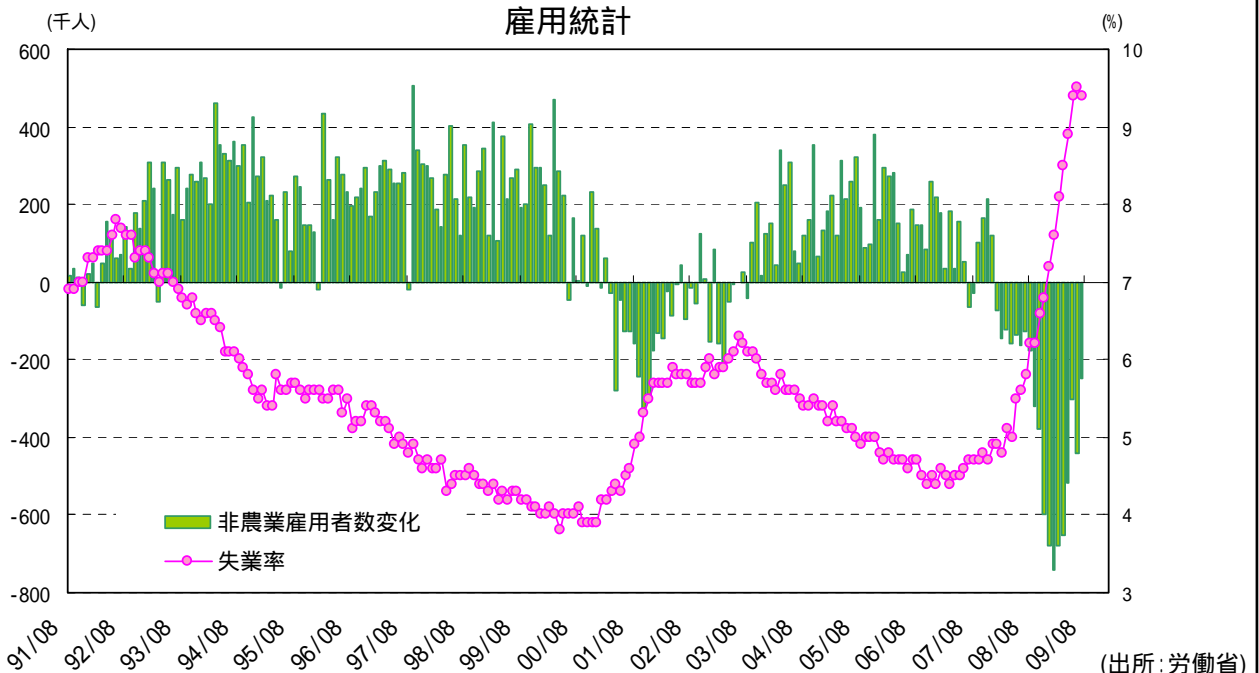
ただし、所得・雇用環境の悪化を勘案すると先行きの個人消費に依然として期待が出来ない状況です。

Note

Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。

米国;雇用を取り巻く環境



7月の非農業部門雇用者数は前月比 247千人と、2008年8月以来の水準まで減少幅が縮小しました。小売を除いて製造業中心に減少幅が大きく改善したこと、政府部門が増加に転じたことが要因です。

また、7月の失業率は9.4%と2008年4月以来の低下となりましたが、労働力人口が前月から 42.2万人減少しており、あまり過大評価すべき内容ではないと考えます。

雇用環境は全体として改善に向かっているものの、雇用の減少は続いていること、賃金も低下していることを勘案すると、主力の個人消費の立ち直りはまだ時間がかかるものと考えます。

Note

Multi-Product & Investment Counseling

本資料は客観的情報に加え弊社の主観的判断も含まれており、投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。シミュレーションやバックテスト、各種の運用実績、運用目標やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、シミュレーションやバックテスト等の各種データは一定の前提条件に基づき作成されたものであり、当該前提条件を十分ご確認願います。



本資料は、お客様の運用戦略や投資判断等の参考となる情報の提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。

シミュレーションやバックテスト等のデータ、運用実績やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、データの一部は、弊社が信頼できると判断した各種情報源から入手した情報等に基づくものですが、その情報の正確性・確実性について弊社が保証するものではありません。なお、本資料は、作成日において入手可能な情報等に基づいて作成したものであり、今後の金融情勢・社会情勢等の変化により、内容が変更となる場合がございます。

本資料に関わる一切の権利は、他社資料等の引用部分を除き住友信託銀行に属し、いかなる目的であれ本資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断り致します。

本資料の内容に関して疑問に思われる点、ご不明な点等がございましたら、弊社営業担当店部等にご照会下さいますようお願い申し上げます。